

令和6年用加工もも病害虫防除基準

発行：JAさがえ西村山・さがえ西村山加工もも部会

- 農薬を使用する際は、農薬の使用基準を遵守し、適正に使用してください。
- 農薬の使用基準は、農薬容器のラベルに記載されています。使用に際しては、ラベルをよく読んで確認してください。
- この基準は、令和5年10月1日現在の農薬登録内容に基づき作成しています。登録内容に変更が生じた時は、変更された内容に準じて使用してください。

散布時期	適用病害虫	薬剤名及び濃度 (水100ℓ当たり薬量)	収穫前 使用回数	総使用 回数	散布量	注 意 事 項 (収穫前使用回数、総使用回数)	防除履歴
① 発芽直前		1. 水 (88ℓ)				1. ハーベストオイルに替えて、スプレーオイル50倍(発芽前、-)を使用してもよい。 2. 縮葉病、せん孔細菌病対策として、石灰硫黄合剤に替えてトレノックスフロアブル500倍(7日前まで、5回以内)を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		2. ハーベストオイル 50倍(2ℓ)	発芽前	-	300ℓ		
		3. 石灰硫黄合剤 10倍(10ℓ)	発芽前	-			
殺虫剤、除草剤の散布制限		訪花昆虫を保護するため、開花1週間前から巣箱を撤去するまでは殺虫剤並びに除草剤の散布はしない。					
② 開花前まで (風せん状)	せん孔細菌病	1. ICボルドー412 30倍(3.3kg)	-	-	350ℓ	1. この回はせん孔細菌病の重点防除時期なので、適期に散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
③ 落花直後 (巣箱撤去後)		1. 展着剤(ハイテンパワー) 10,000倍(10ml)				1. ポリネーションの引き上げ後に散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	灰星病	2. トップジンM水和剤 1,000倍(100g)	前日まで	6回以内	400ℓ		
	アブラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類 カメムシ類	3. モスピラン顆粒水溶剤 ^㉔ 2,000倍(50g)	前日まで	3回以内			
		せん孔細菌病が多い園地では、トレノックスフロアブル500倍(7日前まで、5回以内)を5月中旬に散布する。					
カイガラムシ重点防除 ④ 5月下旬 ～ 6月上旬	せん孔細菌病 灰星病	1. トレノックスフロアブル 500倍(200ml)	7日前まで	5回以内	400ℓ	1. 黒星病が多い園地では、6月中旬にサルファーゾル400倍(発芽前～発病初期、-)を散布する。 2. 例年、コスカシバの多い園地ではスカシバコンLを40～100本/10a設置する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	カイガラムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ アブラムシ類	2. サイアノックス水和剤 1,000倍(100g)	21日前まで	3回以内			
⑤ 6月下旬	灰星病	1. オーシャインフロアブル 3,000倍(33ml)	前日まで	3回以内	400ℓ	1. オーシャインフロアブルは、うり科の野菜に薬害の恐れがあるので注意する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	シンクイムシ類	2. アグロスリン水和剤 ^㉔ 1,000倍(100g)	前日まで	5回以内			
	ハダニ類	3. ダニコングフロアブル 2,000倍(50ml)	前日まで	1回			
【特別】 7月上旬		1. 展着剤(ハイテンパワー) 10,000倍(10ml)			400ℓ	1. モモハモグリガが多い園地で散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	アブラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類 カメムシ類	2. モスピラン顆粒水溶剤 ^㉔ 2,000倍(50g)	前日まで	3回以内			
		もちづきの場合は、無袋栽培のため、この回以降は生食ももの防除に準ずる。					
⑥ 7月上中旬	灰星病	1. ダコニール1000 1,000倍(100ml)	前日まで	6回以内	400ℓ	1. 灰星病の被害果は、見つけしだい処分する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	シンクイムシ類 ハマキムシ類 アブラムシ類	2. ダイアジノン水和剤 ³⁴ ^㉔ 1,000倍(100g)	前日まで	4回以内			

散布時期	適用病害虫	薬剤名及び濃度 (水100ℓ当たり薬量)	収穫前 使用回数	総使用 回数	散布量	注 意 事 項 (収穫前使用回数、総使用回数)	防除履歴
⑦ 7月下旬	灰星病	1. ダコニール1000 1,000倍(100ml)	前日まで	6回以内	400ℓ	1. この時期からモモハモグリガが多発するので防除を徹底する。 2. マイトコーネフロアブルに替えてダニゲッターフロアブル2,000倍(前日まで、1回)を使用してもよい。ただし、開花期の水稻に本剤がかかった場合、穂に薬害を生じる場合があるのでかからないように注意する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	シンクイムシ類 モモハモグリガ アブラムシ類	2. スカウトフロアブル ^㉔ 2,000倍(50ml)	前日まで	5回以内			
	ハダニ類	3. マイトコーネフロアブル 1,000倍(100ml)	前日まで	1回			
⑧ 8月上旬	灰星病	1. インダーフロアブル 5,000倍(20ml)	前日まで	4回以内	400ℓ	1. ハダニ類が見られる園では、コロマイト乳剤1,000倍(7日前まで、1回)を散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
⑨ 収穫後 (8月下旬)		1. 展着剤(アピオンE) 1,000倍(100ml)	-	-	400ℓ		散布日 月 日 散布量 ℓ
	せん孔細菌病	2. ICボルドー412 50倍(2kg)	-	-			
	モモハモグリガ	3. スミチオン水和剤40 1,000倍(100g)	3日前まで	6回以内			
		せん孔細菌病予防のため、ICボルドー412を収穫後2回、必ず散布する。					
⑩ 9月中旬	せん孔細菌病	1. 展着剤(アピオンE) 1,000倍(100ml) 2. ICボルドー412 50倍(2kg)	-	-	400ℓ	1. コスカシバが多い園では、落葉後にラビキラー乳剤 ^㉔ 200倍(落葉後～発芽前(休眠期)、1回)を散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ

耕種的防除

全 般	1. 適切な肥培管理等により、樹勢を健全に保つ。 2. 園地の角など薬剤が到達しにくい部分や混み合っている部分の枝は6～7月中に徒長枝管理を行い、冬季に切りすぎない。 3. 日焼け、凍害防止のため、主幹部にホワイトンパウダーを散布または塗布する。
せん孔細菌病	1. 風の強い園では、防風対策を徹底する。 2. 樹勢が弱いと発生が多くなるので適切な樹勢の維持に努める。
灰星病	1. 被害部位(花・葉・果実)は見つけしだい除去し、土中深く埋める。 2. 枯死枝やミイラ果は見つけしだい摘除し、適切に処分する。

加工もも施肥基準(成木:10a当り)

作型・目標収量	肥料名	施肥量(kg)	施肥時期	N	P	K	備 考
加工もも 3,000kg	磷硝安加里 S248 (わかみどり)	10kg	収穫後	2.0	0.4	0.8	お礼肥は収穫後、基肥もできるだけ早く施用し、年内に分解吸収されるようにしましょう。 若木は新梢の停止が遅れると、冬の凍害による幹割れや、胴枯病の発生が多くなるので、極力減肥し、有機物や土壌改良剤の施用に力点をきましょう。
	フレッシュフルーツ 有機70	100kg	10月上旬	10.0	5.0	2.0	
	合 計			12.0	5.4	2.8	